

臨床医学研究のお知らせ

聖路加国際病院では、将来の医療を向上させるため、臨床医学研究を行っています。つきましてはご理解の上、ご協力をお願い申し上げます。なお、個人情報厳重に管理させていただきます。

研究計画や研究方法に関する資料をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体の目的や進行に支障となる事項以外はお知らせすることができます。ご質問がありましたら下記連絡先にお問い合わせください。

【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】

住所：〒104-0044 東京都中央区明石町 9-1
電話：03-3541-5151
担当者の所属・氏名：循環器内科 桑原政成

【研究責任者】

聖路加国際病院 循環器内科 桑原 政成

【研究代表者】

聖路加国際病院 循環器内科 桑原 政成

予防医療センターを受診された方を対象とした Body mass index (BMI) や尿酸などが心血管疾患リスク因子に与える影響の日米比較に関する研究

1.研究の対象

2004年1月～2010年6月に当院予防医療センターで健康診断を受診された方

2.研究の目的・方法

・私達は、これまでに聖路加の健康診断のデータベースを利用した研究で、尿酸が高い程、高血圧症の有病率が高くなること、高尿酸血症だけでなく5年間の血清尿酸値の変化が腎機能障害の独立したリスク因子となること、無症候性高尿酸血症単独でも将来的な高血圧症や脂質異常症、肥満などのリスクとなること等を報告させていただきました。しかし、これらの研究は本施設のみデータをを用いた研究であり、本結果が世界的に当てはまるかは明らかではありません。本研究は、BMIや尿酸などが心血管疾患リスク因子に与える影響についての検討を、一般利用可能な米国の既存データと比較することで、日米間で違いがあるかについても検討します。米国では日本と比較して肥満が多く、BMIが高いとされています。しかし、BMIや尿酸などが心血管疾患リスク因子に与える影響についての、日米間の差異については明らかとなっておりません。本研究では、これまでの研究を発展したものとして、BMIや尿酸などが心血管疾患リスク因子に与える影響について、日米間での比較検討を行い、BMIや尿酸の心血管疾患リスク因子に与える影響を調べることで、日本人における最適なBMIを調べることができ、生活習慣を含めた今後の予防医療に大きな貢献ができると考えられます。予防医療センターを受診された患者さんにおいて、2004年1月1日から2010年6月30日までの健康診断のデータを調査します。なお、この調査では通常の保険診療以外の医療行為はなく、診療録（カルテ）に記載される内容についての調査のみとなります。調査期間は研究倫理審査委員会承認後～2018年9月30日までの予定です。

3.研究に用いる試料・情報の種類

身長、体重、BMI、一般採血検査項目、パイル、喫煙歴、飲酒歴、現病歴、既往歴、服薬歴、患者背景、心電図、1日の運動時間、睡眠時間、血液・尿検査結果、呼吸機能検査結果 等

4.外部への試料・情報の提供

データセンターへのデータの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。データと研究の対象の方との対応表は、当院の研究責任者が保管・管理します。

5.研究組織

・コロラド大学デンバー校 Richard J Johnson